

シリーズ・人権を考える

中学生以上・一般向け／約23分

無自覚の差別・無意識の偏見 部落差別のマイクロアグレッション



《エコーチェンバー現象》

自分と似た意見の人とばかり交流することで
自分の意見が肯定されて強化される現象



私たちが
一緒に
闘うから。



ねえ、
部落のこと
教えて。



部落差別

歴史的に被差別部落とされた地域や出身者に対する社会的偏見・差別を指す。現代では、「部落は怖い」などの偏見や「出身地をいっしょに聞く」「部落の子をいっしょに遊ぶ」「もう差別とかないでいい？」など無自覚の差別（マイクロアグレッション）も問題となっている。

シリーズ・人権を考える

中学生以上・一般向け／約22分

ネット時代の落とし穴 現代の部落差別から考える

監修のことば



一般社団法人
山口県人権啓発センター
事務局長
川口 泰司

■ネット時代の落とし穴

本作品は、SNS上で広がる部落差別における「現代的レイシズム」を真正面から描いた教材です。「現代的レイシズム」とは、「差別はもう存在しないのに、被差別者が利権や特権を得るために差別だと騒いでいるだけだ」とする言説であり、SNS上の差別的投稿に多く見られます。さらに、一部の不祥事や問題行動を過度に一般化し、「やはり部落の人間は」と差別の原因を被差別者側に押し付け、「これは差別ではなく正当な批判だ」と正当化していきます。

本作品では、こうした偏見や差別的情報に影響を受けた主人公が、当事者との出会いや学びを通して変化していく姿を描いています。若い世代がネット社会に潜む差別の構造を理解し、人権や部落問題を学ぶ重要性に気づくきっかけとなる教材です。

■無自覚の差別・無意識の偏見

この作品は部落問題における「マイクロアグレッション」（無自覚の差別）や「アンコンシャスバイアス」（無意識の偏見）など、悪意のない言葉が当事者を深く傷つける現実を映し出しています。結婚差別や就職差別、露骨な差別発言や排除だけが部落差別ではなく、日常の無自覚な差別も当事者を苦しめています。「この地域（部落）は怖い」という偏見の発言はもちろん、部落出身だとカミングアウトした際に「部落とか気にしない」「差別なんかもうないし、そっとしておけばなくなる」といった言葉も、差別の現実を放置し、当事者を悲しい気持ちにさせます。

本作品を通して、部落問題について「関係ない」ではなく、自分も差別をなくす当事者として「一緒に考えたい」と言える仲間になれることを期待しています。

映学社作品

●お申し込み・お問い合わせは

TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-31-220

【飲酒運転撲滅宣言企業】HP <http://hakuei-shoji.jp> E-Mail info@hakuei-shoji.jp

ネット時代の落とし穴 現代の部落差別から考える

企画意図

水平社宣言から100年経った今。2002年に同和対策事業が終了し、国としての政策は一区切りつきましたが、それでも部落差別は依然として私たちの身のまわりに存在しています。そしてネットの普及により再燃しています。部落差別は、自然になくなるものではありません。この作品では、一人でも多くの人が部落差別をなくす意識を持ち、行動してこそ解決の道へとつながることを示唆します。

作品の概要

■SNSで「語られない真実」を知る？

夏休み、祖母の史子の家で過ごすことになった15歳の真人。努力家の父・智則の姿を見てきた真人は、努力をしていない人が許せない性格である。最近SNS上で「被差別者が優遇されている」という情報を知り、真人は差別的な投稿に同調する書き込みをしていく。

■史子の告白

自由研究で「同和利権について調べる」と言い、母・茜から叱られた真人。実は、史子と智則は部落出身であった。

真人は史子の口からその事実を聞き、動揺する。「…差別なんてしてない。それに、俺は部落になんて住んでないし、何も関係ない!」と思わず家を飛び出してしまう。

■夜の対話

真人を探し出した智則は、自身の出生や苦勞について、初めてきちんと真人に打ち明ける。SNSから得る情報とは違う「家族が語る経験や思い」を聞いた真人は、部落問題に向き合っていくことを心に決めるのであった。

帰宅した真人は史子に謝る。こうして真人は、家族から聞き取った話を元に、新たな自由研究を完成させていくのであった。

価格

ライブラリー価格 本体 **¥68,000** (税込 ¥74,800)
学校価格 (中学校・高校のみ) 本体 **¥33,000** (税込 ¥36,300)

監修・スタッフ

監修：一般社団法人 山口県人権啓発センター
事務局 川口 泰司

企画・制作統括：高木 裕己 撮影：枝元 雄樹
プロデューサー：今井 乃梨子 音声：小笠原 賢一
脚本・監督・編集：夏衣 麻彩子 制作協力：株式会社CLEO

- 株式会社映学社が製作する映像、DVD、ロゴ、イラスト、チラシ、ウェブサイト等全ての著作物の著作権は、映学社もしくは関係権利者の著作権者に帰属しています。これらの著作物を権利者の許諾を得ずに、複製、転載、改変、譲渡、配布、公衆送信（送信可能化を含む）、放映等に利用することは原則として法律により厳しく禁止されています。
- 本チラシで紹介しているDVDは、DVDビデオディスクです。CD-ROMプレイヤーではご覧になれません。必ず市販のDVDビデオプレイヤーでご覧下さい。
- なおDVDビデオは、映像と音声を高密度に記録したディスクです。詳しい再生上の取扱いについては、ご使用になるプレイヤー、テレビなどの取扱説明書をご覧ください。

無自覚の差別・無意識の偏見 部落差別のマイクロアグレッション

企画意図

部落差別を知らない若者世代が増えています。被差別当事者がまず直面するのは、差別が不可視化されたことによって起こる「無自覚」や「無意識」によって、敵意、軽蔑、軽視などの侮辱を受けることです。この作品では、形を変えて起こっている部落差別「マイクロアグレッション」に焦点を当て、被差別当事者とその友人が、そのことに気づき、学び、共に闘う姿を描きます。「部落差別を解消するためには何が必要なのか」を考える契機になることを目指しています。

作品の概要

■見えなくても確かにある差別

部落にルーツを持つ凛と、その友人の翔太、唯、柳は、高校の仲良しグループ。凛は、部落解放運動をしている母親がいることや、凛のルーツそのものを理由に、インターネット上で嫌がらせを受けていた。しかし凛は、そのことを周りに相談できない。

■マイクロアグレッション

ある日、凛は部落差別を受けていることを翔太に打ち明ける。「それって昔の話だろ」「部落とか気にしないし」と、翔太は無自覚の差別、マイクロアグレッションをしてしまう。

■私たちにできることって何かあるかな

傷ついた凛は、母親に相談した結果、部落解放運動の会見に顔を出すことになった。一方翔太は、仲間との対話の中で、凛に対する自身の言動がマイクロアグレッションだったことを自覚するのだった。

■仲間との会見

会見当日。会場に駆けつけた翔太たちは、凛と一緒に闘うことをカメラの前で宣言する。それに勇気をもらった凛も応えるように、会見で話をする。「今、差別を受けて悩んでいる人がいたら、一人で悩まないでください。一緒に闘うから!」

価格

ライブラリー価格 本体 **¥68,000** (税込 ¥74,800)
学校価格 (中学校・高校のみ) 本体 **¥33,000** (税込 ¥36,300)

制作・著作/株式会社 映学社

■DVD [カラー] ※字幕版も収録されています

■2026年・映学社作品

●お問い合わせ、お買い上げは……

(映) 有限会社 博映商事
【飲酒運転撲滅宣言企業】

TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-31-220

【HP】 <http://hakuei-shoji.jp>

【E-Mail】 info@hakuei-shoji.jp



 株式会社 映学社
EIGAKUSYA CO.,LTD.